おつりが多い

年　　組（　　）

「たしか、この人形だったな。」

シゲキは、たなの上に手をのばした。今日は、お姉ちゃんのために、プレゼントを買いにやってきたのだ。お姉ちゃんがほしがっていた人形を買うつもりだ。

「お姉ちゃん、きっとよろこぶぞ。」

本当なら、人形にかぶせる帽子も買ってあげたいところだ。

でも、それにはあと500円も足りない。買ってあげたい気持ちはあるのだけれども、お金がないなら仕方がない。きっと、人形だけでも喜んでくれることだろう。

レジに持って行って、お金をしはらう。シゲキは、2000円を店員さんにわたした。

「1300円です。」

700円を返された。

おかしい。だって、ねだんは1800円だ。おつりは、200円のはずなのに。おそらく、店員さんがねふだを見間ちがえたのだろう。

「返さなきゃ――。でも、ちょっと待てよ。」

シゲキは、手を止めた。

これなら、人形の帽子も買うことができる。

お姉ちゃんを、よりよろこばせることができるじゃないか。

それに、おつりを間ちがえたのは、店員さんのせきにんだ。ぼくが悪いわけじゃない。でも――。

シゲキは、ギュッとおつりをにぎりしめた。

シゲキは、おつりで人形の帽子を買うべきでしょうか。それとも、おつりを返すべきでしょうか。あなたの考えと理由を書きましょう。

話し合って考えたことを書きましょう。